

岳連ニュース

宝永

URL: <http://www.shizuokakensangakulenmei.com/>

静岡県山岳連盟
 〒422-8076
 静岡市駿河区八幡3-1-17
 TEL (FAX) 054-288-7512
 編集発行/総務委員会
 平成25年11月25日発行



総監督総括

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。

東京都における国民体育大会の開催は、冬季大会が平成17年の第60回大会以来、8年ぶり2回目、本大会が昭和34年の第14回大会以来、54年ぶり3回目、全国障害者スポーツ大会は初めての開催となった。

成男監督講評

4日はボルダリング競技で、6分間の持ち時間で2課題を登り、6分の休憩のあと、もう2課題を登る、団体の総合成績で競います。鈴木は、健闘し2課題を完登するが、米山

少男6位入賞

多摩、島しょ地域を中心に都内全域で開催された。本大会の山岳競技は、東久留米市で10月4日～6日の間開催され、本県からは、成年男子と東海大会を勝ち抜いた少年男子が出場した。結果は、成男は健闘したが入賞はできなかった。少男は、リード競技では、実力を発揮できず悔しい思いをしたが、その分ボルダリング競技では、健闘し6位に入賞した。昨年は惜しくも入賞をのがしたが今年に入賞を果たした。成男と少男の健闘を讃えたい。(滝田)

と動き回る価値はない) 地図を元に計画する場合は、絶対に見逃してはならないこと(間違えやすい場所、コースの方向が変わる場所など)を記憶にとどめておき、必ず地図を見なければならぬ。タイムミスを忘れたり見逃したりしないことが大事とした。

県岳連では未組織の中高年登山者への指導が課題であったが国立登山研修所では今年から全国の主要12都市で安全登山講習会を開催しているという。

この計画で中高年登山者の安全意識の高揚が図られ、遭難防止に繋がることを期待したい。

9月常任理事会

9月2日(月)静岡労政会館で常任理事会が開催された。会長他17名の出席者であった。滝田会長から今年度新しく計画された夏山登山教室が実施され、関係者の尽力に感謝するとの言葉。

今年度も平成26年版岳連カレンダーを販売するのでよろしく協力をお願いしますとの挨拶があった。

●各委員会の報告
 夏山登山教室は定員20名で募集したが8名の参加。第一回は山伏に、第二回は白馬岳に登った。

●参加者からは、この企画を継続してほしいとの要望があった。少年少女登山教室は20組40名の募集であったが7家族15名の参加で予想を下回った。

●自然観察講座と富士登山を行った。

●収支は9万1千円の赤字となった。特別基金からの拠出を承認してもらいたいと会長から提案され、異議なく承認される。

●いずれの登山教室も如何に参加者を増やすかが来年の課題だ。

●各委員会の事業計画
 ●スポーツフェスティバル
 9月7日～8日に行われる

少男監督講評

4日、少年男子のリード競技は予選が9位と惜しくも決勝進出とはならなかった。今年のチームはクライミングを得意とする編成だったのでこの結果は残念なものであった。

予選のルートから、流行の「ハリボテ」が使われた。下部に用意されたものは丸く大きなハリボテで、そこからはバランスの悪いまま高めのカチへ伸びるというもの。中間部に用意されたのは1.5mほどの巨大な三角すいハリボテ。結構なチームがフオールした。本県チームはここは通過した。

第2核心部ハリボテの側面につくホールドを使いダウントラバース。鈴木はダウンしたが足が止まらずフオール。田邊は下部での堅さが体力面に影響し保持で

るとの言葉。

今年度も平成26年版岳連カレンダーを販売するのでよろしく協力をお願いしますとの挨拶があった。

●各委員会の報告
 夏山登山教室は定員20名で募集したが8名の参加。第一回は山伏に、第二回は白馬岳に登った。

●参加者からは、この企画を継続してほしいとの要望があった。少年少女登山教室は20組40名の募集であったが7家族15名の参加で予想を下回った。

●自然観察講座と富士登山を行った。

●収支は9万1千円の赤字となった。特別基金からの拠出を承認してもらいたいと会長から提案され、異議なく承認される。

●いずれの登山教室も如何に参加者を増やすかが来年の課題だ。

●各委員会の事業計画
 ●スポーツフェスティバル
 9月7日～8日に行われる

350部作製し、見本が回覧された。各加盟団体は10月31日迄に10部以上の購入をお願いしたい。

●その他
 ①富士山国有林の二ホンジカの重点的補獲実施について
 平成25年8月24日～12月20日の期間。上井出地区にて銃及びわなを使用。

②山岳ヘルメット着用奨励山域の指定
 長野県山岳遭難防止対策協会より、滑落、転落などの事故が多い長野県の山域を「山岳ヘルメット着用奨励山域」に指定して登山時のヘルメット着用を定着させる活動を始めたので、周知させて欲しいとの依頼があった。

③一常任理事よりの提案
 富士山登山におけるストック使用のマナーリーフレットを作成し、県岳連が音頭を取って推進したら如何? (長野)

今回は、得意種目がそろわず、それぞれ片方の種目は悪くなかっただけに、残念な結果となりました。(諸戸)

4日、少年男子のリード競技は予選が9位と惜しくも決勝進出とはならなかった。今年のチームはクライミングを得意とする編成だったのでこの結果は残念なものであった。

予選のルートから、流行の「ハリボテ」が使われた。下部に用意されたものは丸く大きなハリボテで、そこからはバランスの悪いまま高めのカチへ伸びるというもの。中間部に用意されたのは1.5mほどの巨大な三角すいハリボテ。結構なチームがフオールした。本県チームはここは通過した。

第2核心部ハリボテの側面につくホールドを使いダウントラバース。鈴木はダウンしたが足が止まらずフオール。田邊は下部での堅さが体力面に影響し保持で

ナビゲーション技術の重要性

中高年安全登山指導者講習 モリトピア愛知

国立登山研修所と日山協主催の平成25年度の中高年登山指導者講習会が愛知県新城市の県民の森「モリトピア愛知」で9月27日～29日の3日間開催され、木ノ内理事長が参加した。東部地区開催というところで、北海道から滋賀県までの都道府県から37名が参加し、登山研修所の渡辺所長と日山協の神崎会長も参加した。

講習会はナビゲーション技術を重点に道迷いや遭難防止の対処を講義と実技で説明した。その概要を記す。

「道迷いのためのナビゲーションの考え方」として地図とコンパスを利用してナビゲーションが登山のプランニングやリスク予測、実践行動での現在の把握とルート維持にいかにかに大切か、これが道迷い遭難防止のキーとなり登山の成否を分けること

スポーツフェスティバル 古来の道 村山道を歩く

古来富士山は、信仰の対象とされてきた。富士山に登り自然の霊力に接することを願って登山されてきた富士山。富士登山の古来からの道の一つが村山道である。今回、まだ、信仰登山の名残のある村山道を案内することにより、世界文化遺産への登録となった富士山をもう一度原点に戻って見つめ直して欲しいと思ひ、企画した。

【一日目】
Aコースは、吉原駅南の富士塚で開会式の後、バスで村山浅間神社に移動し、そこから村山道を通った。村山道は浅間神社から村山の部落を抜けて綺麗に植林された林の中の林道を行く。道のほとんどは植林と窪地の中なので、草に覆われ不明



瞭な所もある。途中、林道富士裾野線を横切り、次に、北井久保林道を横切る。横切つてしばらく歩くと、少し開けて札打跡の大ケヤキに出た。大ケヤキには縄が巻かれていて、信者の人たちの木札が挟まれていた。しばらく歩くと、右手が明るくなり、天照教に出る。ここでゆっくり昼食をとり、落葉樹の明るい林の中を歩き、30分程で今日の宿泊場所の山の村に着いた。



りになっていく。新東名のために道は寸断されているが何とか、大淵に入つて行く。所々、「左 村山道」と書かれた道しるべが出てくる。次郎長開墾を過ぎ、最後のひのきの植林を登りきると、村山浅間神社の大杉が見えて来る。今日はここまで。宿泊場所の山の村まで車で送ってもらう。

向かうコースである。歌川広重の東海道五十三次に描かれていた「左富士」を通過し、「平家越」の石碑を左に曲がって吉原の町に入る。吉原の町を西木戸から出ると道は北に向かう。道は徐々に上

雷警報が発令される程の荒天のため、大幅な計画の変更を余儀なくされた。A B合体で山の村から中宮堂跡、女人堂跡までと、西臼塚登山とした。Cコースは8時20分西臼塚に集合したが、荒天のため村山道に入つて、中宮堂跡、女人堂跡まで

高校クライミング競技大会 男子 吉田 松体 優勝 女子 北脇 松体 優勝

県高校クライミング競技大会は、第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の予選をかねて、11月9日(土)、浜松スクエアクライミングセンターにて4校31人の生徒が参加して行われました。女子の予選は、凹角から小ハングのトラバース・フェイス・カンテと傾斜の徐々に立つてくる高さ13mのルートで、足裁きの正確さが要求される。(グレードは11bc) 6名は7m付近まででフオール。そこを突破したのが4名で浜松日体高の北脇

歩いた。交通機関の影響等で15人が参加することができず、また、6合目までの村山道を歩くことができず大変残念だったが、いにしえの人々の富士山に対する信仰心に思いを馳せながら歩くことができたと思う。(工藤紀)

グレードは12d。第三ハングへのランジに成功したのが浜松日体高の吉田と鈴木の名で、最後のムーブの正確さで1手差で吉田の優勝となりました。結果、男子は5名(日山協推薦各2名を含む)、女子は3名の計8名が全国大会に駒を進めました。会場を提供していただいた浜松スクエア及び運営に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。12月に埼玉県加須市で行われる全国大会出場者は以下の通り。
○男子1位 吉田隣生 (浜松日体・日山協推薦) 2位 鈴木正信 (浜松日体・日山協推薦) 3位 西沢祐紀 (浜松日体) 4位 伊藤公大 (富士宮西) 田邊匡律 (浜松日体、日山協推薦)
○女子1位 北脇順子 (浜松日体・日山協推薦) 2位 古川弓海 (富士宮西) 3位 村野加奈 (富士宮西) (諸戸)

少年少女登山教室 富士登山 登頂者感激一入

県山岳連盟としては、初めての取り組みである、少年少女登山教室を、8月26、27日の2日間の日程で実施した。教室に参加されたのは、7家族15名であった。今回は、保護者同伴を条件とした為に、熱心な保護者の方々と、小学校5年生、6年生の男女児童8名の皆さんでした。

第1日目は、富士登山とし尿処理の問題をテーマにした座学と、県立富士山麓山の村周辺の自然休養林の中を散策しながら、自然観察講習会を行いました。観察会の講師には、森林インストラクターの難波操さんをお願いしました。講師からは、富士山の成り立ちから、自然林の中の樹木の名前や、樹皮の色や形状、また葉の形や香りによって樹木を見分ける方法及



び食用に向く植物の選び方等をご指導いただきました。子供達は、興味深そうに葉の匂いを嗅いだり、樹皮の表面を手で撫でまわしたりしながら、講師の話に聞き入っておりました。自然休養林の中には、ブナの大木等が生い茂り、見事な自然が残されておりました。第2日目は、富士登山を行いました。夜半からの雨も上がり、朝には天気は回復した。午前4時に起床し、4時半にバスに乗りまして、富士宮口五合目駐

車場へ向かった。五合目では、高度順応を行なうため1時間、朝食と登山準備の時間を設けた。その後、午前6時半に五合目を出発した。隊は3班に分け、班長と支援員3名、養護員1名のサポート体制で引率した。先導は、富士登山に精通している、指導委員会の工藤委員長にお願いした。スローペースで登っていったが、元祖七合目あたりから、鼻血を出す子や体調不良を訴える保護者が出はじめ、支援員や養護員がその対応に追われるようになった。当初から、参加者全員を富士山頂まで誘導する目標を立て、あらゆる事態を想定した行動マニュアルを作成したが、子供たちの間の体力差や保護者の体調不良等で、九合目まで、保護者の3名と子供2名が隊のペースに着いてゆけない者と

判断して、下山をお願いせざるをえなかった。この時点で、予定時間を30分以上超過していたので、富士山頂での滞在時間が窮屈となり、昼食時間も満足に取れない状況であった。しかし、富士山頂まで登れた参加者は、感激一入で、「山馴れた人達に案内してもらって、初めて可能となることで、自分達だけでは、富士山頂に達することは出来なかったらう。」と感謝された。この日は、安定した晴天に恵まれ、参加された皆様には、富士の雄大な景色を堪能されたことと思います。下山時がまた大変であった。頂上を極めた子供達の内3名程は、疲労がたまって、足に力が入らず、足を引ぎずったり、踏み出す度に体がよろめいて、ロープや岩の壁を掴まなくてはいけなかったため、転倒させないよう支えて

やるのに精一杯であった。このような状況下にあっても、一人の怪我人も出さずに、全員無事に下山させることができたのは幸いであった。この山岳自然保護の集い(中央大会)として守ろう 伝えよう 山岳の自然と文化をテーマとして、開催された。岳連からは豊田委員長が参加した。全国から22都道府県の107名が参加し総勢132名であった。1日目は総会と各県の自然保護活動の報告と午後からは「ツキノワグマをとうしてみた山岳自然について」と「山はみんなの宝」憲章の制定と参加者の皆さんの期待と題した2講演があった。

第37回自然保護委員会 山岳自然保護の集い中央大会

2日目は3つの分科会が行われAが利用者負担、受益者負担、Bが自然資源の疲弊、Cが自然保護指導員の役割について意見交換が行われた。C分科会では次世代の育成と指導員の増員、自己の研鑽と自然保護の啓蒙に努めて欲しいとした。静岡は県内外の山の愛好者等358名が静岡県高山植物保護ボランティアネットの年2回の研修会と交換会、講演会などの活動を報告し高く評価された。又、南アルプスの直下を通るリニアの環境調査とボーリングが今夏終了したと報告。(豊田)